まえがき

外国を理解することは難しい。

いうまでもないことだが、他国は自国とは大きく異なる。自国とは異なる対象を理解するためには、正確で偏りのない知識を持つことが要求される。場合によっては現地に居住したり、現地語を習得したりする必要もあろう。だが、現地語を習得したり、現地に長い期間住み続けたりすることは容易でない場合も多い。

インターネットやソーシャルメディアが発達した時代においては、おびただしい量の情報が氾濫しており、刻一刻と「情報の洪水」が我々に流入してくる。それらの情報は有用であり、他国を理解するのに役立つ場合も多い。アメリカのニュースは英語さえできれば、誰にでもある程度は理解可能である。また、旅行などでアメリカに一度でも足を運んだという人も少なくないだろう。

だが、それでアメリカを「正確に偏りなく」理解できるかといえば、そうとは限らない。インターネットにあふれかえる情報の中には信憑性の低い情報も数多く含まれている。誤った情報を鵜呑みにすれば、特定の「地域」に対する歪んだ先入観につながりかねない。

アメリカの政治や社会には、日本人が直観的に理解することが難しいアメリカ固有の事象が少なくない。それらを基礎知識として正確に理解していなければ、たとえ現地に居住してアメリカの政治を直接体験したとしても、目の前で起きていることの意味を正しく理解し、解釈することはできないだろう。

情報を取捨選択できるようになるためにも、アメリカで実際に起きていることの意味を自分なりに理解できるようになるためにも、まずはアメリカについて基礎知識をしっかりと学ぶこと、そのうえで、先入観や思い込みをできる限り排して、アメリカという地域を可能な限り正確に理解しようと心が

けること、そのような地道な努力が求められるのではないだろうか。

もちろん、アメリカを理解しようとする日本人の眼差しは決して完全に「正確」でも「客観的・中立的」でもありえない。だが、明白な事実の誤りを含む知識や党派的・感情的な思い込みに基づいた歪んだ他者理解は、アメリカを知るうえで有益ではない。

また、われわれは何のためにアメリカを理解する必要があるのか。

この問いに対して、斎藤眞はかつて以下のように述べた[1)]。

> アメリカとは何か、いや一体アメリカとは何かという問題はアメリカ人自身によって繰り返し自問自答され、自己確認され、自己主張されてきた問題であった。何故自分はアメリカ人なのか（あるいはアメリカ人になったのか）、そしてアメリカ人とはという二つの問いかけが重なり合ってアメリカ人の心を捉え、揺さぶり、とめどもなく語らしめる〔中略〕このあくことなき自己追求（自己の正体を確かめるという意味で正しくアイデンティティの追求）と自己顕示にはもとよりそれなりの理由がある〔中略〕アメリカ人は自己形成については恐ろしく生真面目なのである。いや、生真面目足らざるを得なかったのである。自己の選んだ道、自己の選んだ社会について言い訳は許されない。

アメリカと何なのか —— 斎藤眞が指摘したように、アメリカ人自身によるアメリカ研究は自己のアイデンティティを追求する作業にほかならない。だが、外国人である我々がアメリカという「他者」を理解しようとするとき、我々は「他者」であるアメリカを理解することを通じて、最終的には自国とアメリカとの差異を発見していく。

つまり、我々にとってアメリカを理解することは、アメリカという「他者を理解すること」を通じて、「より深く自国・自己を理解するためのプロセス」なのである。

かつて、アメリカを訪問した際の見聞に基づいて『アメリカのデモクラシー』を著したフランス人貴族、アレクシ・ド・トクヴィルは「アメリカの中にアメリカを超えるものを見た」と述べた。トクヴィルの言葉にあるように、アメリカは我々自身を映す鏡なのである。

現在のアメリカを理解することを通じて、我々は何よりも我々自身をより

深く理解し、新たな自己理解へと到達せねばならない。本書が日本におけるアメリカ理解をさらに深める一助となれば、幸いである。

本書の企画の段階から出版に至るまで、大学教育出版の佐藤守氏、中島美代子氏には大変お世話になった。ここに感謝の意を表したい。

山岸 敬和・西川　賢

1）　斎藤眞『アメリカ史の文脈』（東京大学出版会、1981 年）

ポスト・オバマのアメリカ

目　次

まえがき…… i

序　章　歴史的地殻変動の中のオバマ政権 …… 山岸 敬和・西川　賢…1

1. はじめに　1
2. 人口動態から見るアメリカ政治の長期的変化　3
3. 大統領選挙から見るアメリカ政治の長期的変化　10
4. おわりに　13

第Ⅰ部　制　　度

第１章　大統領制 —— 議会との協調から単独での政策形成へ
…… 梅川　健…20

1. はじめに　20
2. 大統領制の変容　21
3. オバマ政権による議会との協調の試み　28
4. オバマ政権による単独での政策形成の試み　31
5. おわりに　37

第２章　官僚制 —— オバマによる応答性の追求とその限界
…… 菅原 和行…43

1. はじめに　43
2. 連邦官僚制の現代的課題　44
3. オバマ政権における政治任用の動態　47
4. オバマ政権における行政管理の動態　51
5. おわりに　56

第３章　政党制 —— 理想と現実の狭間 …… 西川　賢…61

1. はじめに　61
2. 6つの政党制　62

3. 第六次政党制の揺らぎ：新しい政党制？　67
4. オバマ大統領の統治スタイルの変遷　70
5. おわりに　76

第Ⅱ部　アクター

第４章　メディア――政権運営におけるソーシャルメディアの活用と「オープンガヴァメント」　……清原 聖子…82
1. はじめに　82
2. オバマ政権の「オープンガヴァメント」　84
3.「オープンガヴァメント」における「市民参加」の枠組み　91
4. おわりに　97

第５章　シンクタンク――「アイディア業界」の変容 ……　宮田 智之…104
1. はじめに　104
2. リベラル系シンクタンクの台頭　105
3. シンクタンクの 501（c）4 団体化　110
4. シンクタンクに対する批判の高まり　113
5. おわりに　118

第Ⅲ部　政　　策

第６章　人種政策――初の黒人大統領としての責務？ ……　荒木 圭子…124
1. はじめに　124
2. オバマの人種問題に対する姿勢　125
3. オバマの黒人関連政策　132
4. おわりに　141

第７章　医療政策 —— 政策の経路依存性から見たオバマケア
…… 山岸 敬和…149
1. はじめに　149
2. 決定的転機としての第二次世界大戦　151
3. オバマケアの成立過程と執行過程　159
4. おわりに　167

第８章　外交・安全保障政策 —— 思想、政策とその帰結……小濵 祥子…173
1. はじめに　173
2. 外交思想と政策分析　174
3. オバマの外交理念　176
4. 対話とマルチメソッドな抑止の実践　179
5. 外交の原因と結果をいかに分析するか　184
6. おわりに —— オバマ外交の帰結　189

あとがき…… 196

索　　引…… 198

著者紹介…… 204